

●今、話題の機能性野菜について！ 生産から販売まで



●地力をいかにつけるか！生産者の経験談を交えて考える



●手軽な有機JASの管理記録作成は？



5, 2019年度の取組

②、土壌分析の実施(6ヶ所)

土壌分析装置の活用による生産コストの削減・改善の取組、農場にて講習会の開催、データ収集と分析を実施した。

■有機品目： セロリ圃場の診断＝1ヶ所

人参圃場の診断 ＝1ヶ所

キャベツ圃場の診断 ＝1ヶ所

玉ねぎ圃場の診断 ＝2ヶ所

じゃが芋圃場の診断 ＝1ヶ所

上記の品目について、現地圃場の状況確認・土壌分析・分析結果後意見交換会を行ない、分析の結果より対策の検討・指導を実施。

・圃場の状況確認



・土壌分析機にて診断



・分析結果表を基に意見交換会と今後の検討

土壌分析結果および施肥提案 (施肥提案)

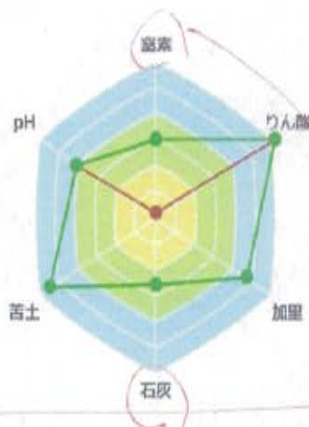
測定店舗

基本情報

測定日	2019年07月25日	依頼者	中間農園
作付面積	20 (反)	区画名	セロリ予定圃場
作土深さ	10cm	土質	畑壌土
作物	セルリー	地域	福岡
備考	地域は鹿児島がなかった為、福岡を選択		

土壌バランス

- 高
- 基準値
- 低
- 測定値
- 施肥後予測値



ポイント

窒素が不足気味で、りん酸-加里が多めです。L型肥料や単肥で整えましょう。

石灰に対して苦土が多めです。

苦土が多めですので苦土資材の施用は控えめにしてください。

あぶらかまを中心に入れる

分析結果

成分・項目	単位	測定値	基準値	低	基準値	高	施肥後予測値
窒素		3.1	29.6~44.4	●			37.0
硝酸態窒素		0.6	—				
アンモニア態窒素		2.5	—				
りん酸	mg/100g乾土	54.7	16.0~24.0			●	54.7
加里		38.8	20.0~30.0			●	38.8
石灰		174.1	143~250		●		174.1
苦土		56.9	25.5~34.0			●	56.9
pH	pH	6.5	6.0~6.5		●		6.5
EC	mS/cm	0	—				
石灰/苦土比	meq/meq	2.2	3.0~7.0	●			2.2
苦土/加里比		3.4	2.0~4.0		●		3.4

施肥提案

資材	反当たり 必要施肥量 (kg/反)	作付面積に 対する 必要施肥量(kg)	一袋入数 (kg/袋)	必要数 (袋)	成分比率 (%)					備考
					窒素	りん酸	加里	石灰	苦土	
尿素	73.7	1473	20	74	46	0	0	0	0	

5, 2019年度の取組

③、新規就農者への支援(3カ所にて6回)

研修圃場の設置及び研修圃場での技術講習会の開催。鹿児島市、
姶良市にて設置各会場にて技術講習会の開催

■有機品目： かぶ 圃場にて 2回開催

新規就農 4年目の生産者



■有機品目： にんにく・大根 圃場にて 2回開催

新規就農 1年目の生産者



■有機品目： 人参 圃場にて 2回開催

新規就農 5年目の生産者



ささいな疑問等を話し解決できるのは、やはり 実際に圃場と農産物を直に
観ながらでないと疑問などは解けない、今回の研修で得たことは他の作物
にも応用でき、有機農業発展に繋がる貴重な圃場研修会であった。

5, 2019年度の取組

④、地域毎の情報交換会(5地域)

有機農業者・新規就農者・有機農業就農希望者・実儒者・栽培技術委員を交え栽培品目、生産量、作付時期の調整の為の意見交換会を開催し効率化を図る為、5地域で開催

■ 地域生産者、関係者との圃場視察



・インセクタープランツ(土着天敵の飛来、土着・市販天敵の定着、増殖などを助ける植物のこと)



■ 有機農産物 安定供給構築の為 南薩地域生産者、関係者との意見交換会



6, 番外編

海外輸出への取組

2020年1月16日 南日本新聞 掲載記事

有機生産組合がタイ輸出

ニンジンとブロッコリー

県発行証明書添付で初

かこしま有機生産組合（鹿児島市）は15日、ニンジン、ブロッコリーのタイ輸出を始めた。青果物の一部は、タイの衛生基準に適合するという原産地の証明書が必要。県農政課によると、県発行の証明書添付した青果物輸出は初めて。



日本貿易振興機構（ジェトロ）によると、日本からタイへの青果物輸出額は増加し、2018年は前年比4割

増の13億円。タイは安全性確保のため18年に食品衛生規制を設けており、ニンジン、キャベツなど約60品目は選果・梱包施設の衛生検査を受けなければならない。

組合は18年から香港、マカオ、シンガポール、ドバイ、クウェートに輸出。19年10月期決算では年間計300万円を売り上げた。

商社の誘いを受け、タイ向けに必要な検査・手続きを19年12月までにニンジン、ブロッコリーで済ませた。

出発式は組合の施設前で、ニンジン3トン、ブロッコリー10トンが出発した。組合海外事業部によると、他の品目も打診があれば対応する。福元飛勇真部長（45）は「安心安全で旬の有機野菜を海外に届けた」と話した。20年10月期のタイを含む海外分の売上高は3千万円を見込む。

1トン、証明書が不要なサツマイモ0・1トントラックに積み込み、拍子で送り出した。福岡を経由し、海路で2月1日に到着。スーパーで販売される。

